



プロジェクターを使った護寺会総会（令和6年4月24日・順慶寺本堂にて）

順慶寺だより



印刷・発行 順慶寺
2024年(令和6年)

5月号

VOL.367

◆◆ 新しい総会のかたち ◆◆

順慶寺護寺会では、毎年護寺会総会を蓮師会の当日に開催している。総会の性質上、会員数の資料を準備する必要があり、欠席された方の総会資料を廃棄することになる。現在、環境に配慮する上でも、総会の資料は紙面に印刷せず、プロジェクターを使ってスクリーンに投影することになった。

◇ 自業自得ということ ◇

今月の釈尊の言葉は、『ダンマパダ』より、
「蔓草がサーラ樹を覆いつくすように、
限りなく生活態度の悪い人は、
敵者が望むように、
その通りに自分を破滅させる」(第一六二偈)
からの出典です。

サーラ樹とは、沙羅の木のこと、日本でもナツツバキの一種として見かけることがあります。半日陰を好み、なかなか育ちにくい樹木として有名です。また、釈迦がインドのクシナガラ城外のバツダイ河畔で入滅した際に、四方にあった二本ずつの沙羅の木が対になっていたことから「沙羅双樹」と呼ばれ、入滅を悲しんで枯れたとも、入滅とともに白く枯れ変じたともいわれています。

今月のところは、釈尊の従弟とも言われる、
①提婆達多が、あまりの悪態をつくしているのを知り、その噂していた釈尊の弟子たちに、釈尊が諭したひと幕です。
自らの欲求を満たすために、釈尊を困らせ、

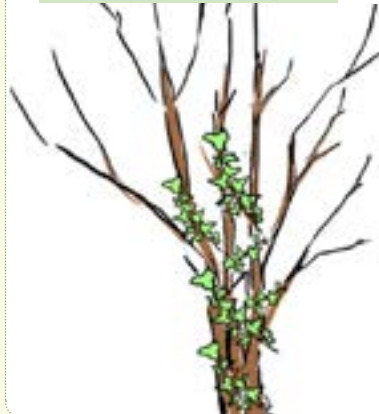
今月の釈尊の言葉

つつしみを忘れれば
敵者の思うが如く
わが身を七ぼす

◆ダンマパダ(法句経)
第一六二偈より
仏教の世界で極悪人とされた提婆達多。実は、はじめから悪い行いをしていただけではありません。



若院のテーマカット NO.60



やがて無間地獄に落ちていったとされる提婆達多のことを思い、釈尊は提婆達多のうわさをしていた弟子たちにこう言いました。

「比丘たちよ、限りなく生活態度が悪い人間というものは、その悪い生活態度が原因となって生じた貪欲が、蔓草がサーラ樹を覆い尽くして破滅させるように、自らを破滅させ地獄に落とすのです。」

この言葉を聞いた弟子たちは、提婆達多ばかりではなく、自らの身も、貪欲に身を任せることなく、きちんと律していかななくてはならないと考えたと言います。

◇ 欲がもとで孤独を深める ◇

釈尊の従弟でありながら、極悪人とされる提婆達多ですが、実は、はじめからそうだったのではありません。

提婆達多は、釈尊がさとりを得られ、多くの弟子をつれて、故郷であるカピラ城に一時帰郷した際、多くのカピラ城の人たちとともに、釈尊の弟子になったようです。

当初、真面目に修行をしていた提婆達多ですが、他の人たちが次々と阿羅漢になった一方、自らは阿羅漢にならないことに腹をたててしまいました。そして、釈尊に復讐することに目覚めてしまいました。

はじめに、マガダ国の王子である阿闍世王子に言葉巧みに近づき、取り入れられるようになりました。そして、王子の後ろ盾を得た提婆達多は、釈

①【提婆達多】

生没年不詳。原名はデーバダッタの音写語で、略して提婆といひ、また調達あるいは天授と訳す。ブッダの従兄弟または義兄弟といわれ、出家してブッダの弟子となったが、のちブッダに反逆し、仏教教団の分裂を図った。マガダ国のアジャータシヤトル(阿闍世)王子を唆し、父王を殺させて王位につかせ、自らはブッダを殺害しようとしたが失敗し、やがて悶死したという。厳格な生活法

尊に対して、「あなたは高齢ですから、私が比丘僧を導きます」と圧力をかけましたが、釈尊から拒否されます。

すると、提婆達多は、さらにエスカレートして、阿闍世に、「あなたは父王を殺して王になってください。私は釈尊を殺して仏になります」と言っ

て、刺客に釈尊を襲わせましたが、失敗しました。さらには、提婆達多自ら山から岩を落として釈尊を殺害しようとしたり、発情期の象を放つて釈尊を襲わせたりしましたが、全て失敗に終わりました。

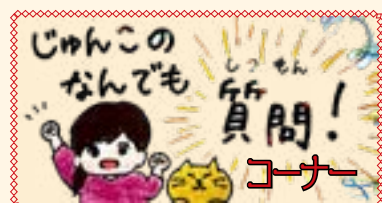
こうした貪欲がもとで、提婆達多は多くの信頼を失い、極度の孤独に陥り病気になるていきました。

最終は、釈尊にお詫びをするために旅に出たのですが、その途中でケガのため体に毒がまわり、苦しみの中で無間地獄に落ちたとされています。

を主張したらしく、提婆達多の教えに従う徒衆が後代にも存続したと伝える。(『日本大百科全書』)

②【阿羅漢】

サンスクリット語・アルハント、パーリ語・アラハントに由来し、仏教において最高の悟りを得た、尊敬や施しを受けるに相応しい聖者のこと。応供ともいう。この境地に達すると、迷いの輪廻から脱して涅槃に至ることができるといふ。(Wikipedia)



春の大法要が終わった！ 田植えが始まるけど、お寺さんは5月からは何をしていますの？

要は、田植えが始まる前に勤めるのが習慣でした。昔は、四月は農繁期に入る前で、お寺の法要が勤められる余裕もあつたんですね。

今では、早生種を植えることも多くなるようで、四月には農繁期になっていきます。ところで、かつて農繁期の始まりが六月だったころ、お寺では、法事は少ないし、勤まりごとも門徒の皆

さんが忙しく、集まることのできなかったので、大変暇でした。このころ、お寺さんのお参りは、オフィスズンに入ったわけですよ。

では、何をしていたかというところ、四月になると、仏教の夏安居という時期にあたって、お釈迦様の時代から僧院にこもって、修行や学問をするときになっていました。ですから、今でも六月は、集中的に仏教の勉強をするときとされています。

六月になるまで、忙しくて読めなかった仏教書、全集ものに取り組みだり、御本山などで開かれている研修会に参加することが多くありました。つまり、お寺さんは、この六月に学問などに取り組み、充電して、冬場のオンシーズンに向けて準備をしていたわけです。

「気がつけて行って来てね」と世話をやいたつもりが、「おばちゃんこそ頑張ってるね」とあべこべに励まされてしまいました。

《第四十九回 蓮師会》

今年も皆さまのおかげさまで蓮師会が無事つとめることができました。若院として参加するのも4回目となり、少しでも周りが見えてきました。やはりその中で目に映るのが、いかに有難いことであつたは、蓮師会の為に注力されて

お寺とともに

「あひむくびすよ」



四月。入学式当日。

いつもより遅い登校の子供達。今日は入学式だから遅いんだな、と成人した子供たちの小さいころを思い出していました。

その日は木曜日で掃除当番の皆さんと境内の草取り・落ち葉掃きに精を出していると、そのうち、何も言わないのに、女の子達が楽しそうにほうきを持って掃除のお手伝いを始めました。

「あれま、可愛い助っ人だこと」と、心がほっこりしました。そのうち学校へ出発時刻となり、低学年だけの出発に、何かと心配になり、

突然のカウンターパンチにたじたじです。子供達にとってはママよりずっと年上の自分に気付き、息切れしてみえたのかなあと苦笑いでした。

蓮師会・護寺会総会開催



相木国男氏提供

さて、4月23日・24日の両日、順慶寺二大法要の一つ、蓮師会が午前午後

の日程で厳修され、同日護寺会総会も開催されました

順慶寺の行事には、雨が風物詩と なっています。今年の蓮師会も、両日 天気はすぐれなかったですが、幸い悪 天にはなりませんでした。



蓮師会で法話される瀧先生

おつとめは、前任職の時代に、正信 偈などはいつも勤めている草四句目下 の形式で勤める形を踏襲して、今回 も実施させていただきました。助音講 の皆さんも大勢参加していただきました。

法話は、二十三日が名古屋市から瀧 義範氏、二十四日が碧南市から青木 馨氏。お二人とも、長く布教に来て頂 いているベテランの先生。今回も蓮師 会を勤めることを念頭に、分かりやす

タケノコ掘り大会に合わせて 花祭り誕生児初参り開催

さて、4月14日、春晴れの暖かいな か、恒例のタケノコ掘り大会と花祭り が開催され、昨年から同日開催となっ た誕生児初参り式も実施されました。

例年責役の相木国男氏の竹林で実 施させていただく、タケノコ掘りは、 好天に加えて、タケノコが大豊作だっ たこともあって、五十名を超える参加 者があり、収穫を皆さん喜びました。 誕生児初参り式には、7名の誕生 児が申込をされて、ご家族揃ってお参

いお話をさせていただきました。

護寺会総会

午前の終わりに、護寺会総会も開 催しました。議事は、令和5年度行 事報告・会計報告、令和6年度役員 紹介・行事計画・予算案でした。

予算案では、蓮師会報恩講の二大 法要の御香資をかなり増額した予算 を計上しました。これは、白蟻被害が 確認されている庫裏の改修費用を積 み上げるために、必要不可欠だと判断 されたためです。

議事については、いずれも異議なく 原案通り承認されました。これによっ て、令和6年度護寺会が正式にスター トしました。



順慶寺花祭り (順慶寺本堂)



相木国男氏提供

4月度護寺会物故者

清和院釋尼津香

3月25日寂 岡本ついで子(90)

名古屋市 岡本洋明様の伯母

釋昭見

4月18日寂 酒井昭雄(93)

名古屋市 酒井宏様の父

殊勝院釋大安

4月3日寂 鈴木 勝(100)

山ノ端組 鈴木榮様の父

調和院釋恒楽

4月26日寂 塚本恒夫(94)

今川西組 塚本良司様の義父

元山ノ端組総代・お花衆の頭

鈴木勝氏逝去

さて四月四日、元山ノ端組総代、鈴木

勝氏が亡くなられました。鈴木氏は、会 社を退職後、順慶寺で本堂仏華の世話を され、「花を選ばず、自分の心に花を向け て立てております」と名言を残されました。

元今川西組総代

塚本恒夫氏逝去

さて四月二十六日、元今川西組総代、塚

本恒夫氏が亡くなられました。塚本氏は、 今川のみならず、多くの功績を残さ れました。平成十六年御遠忌法要では 今川地区の中心となって活躍されました。

編集部短信

◆白蟻調査実施 〓 さて4月9日、 (株)雨宮シロアリにより白蟻調査を実 施。本堂及び庫裏はともに新たな白 蟻被害は発見されなかったが、庫裏 の白蟻被害は、以前の修復時に見つ かっており、今回、調査によりその 甚大さが再度強く指摘された。

◆二十一組寺院対抗後ゴルフ大会開 催 〓 さて4月26日、二十一組五ヶ寺 による対抗戦が、豊田市のロイヤル CCにて開催。順慶寺が団体優勝した。

編集雑記

今期の護寺会予算では、順慶寺二天 法要の参詣者を大幅に増やす計画が了 承されました。主な理由は庫裏の改修 費用を捻出するためですが、これから いっそう気を引き締めて、自身にムチ を入れていかなければなりません。(住

四月末には二十度後半になるとの予 報を見ました。桜の開花が遅かったの で、暑くなるのも遅いと思っていました が、そんなことはなさそうです(涙)。(若



5月の主な行事予定

日	曜	行事内容	掃除当番
1	水	(有志)寺カフェ(9:00~、順慶寺南落間他)	
2	木		木-1
3	金		憲法記念日
4	土		みどりの日
5	日		こどもの日
6	月	お楽しみ会(14:00~、順慶寺本堂)	
7	火		
8	水		
9	木		木-2
10	金		
11	土		
12	日	助音講(16:00~、順慶寺玄関)	
13	月		
14	火		
15	水		

16	木	同朋ゼミ(14:00~、順慶寺玄関)	木-3
17	金		
18	土	順慶寺こども会(9:00~、順慶寺本堂)	
19	日	真宗講座(16:00~、順慶寺本堂)	
20	月		
21	火		
22	水		
23	木		木-4
24	金	21組主催同朋教室(13:30~、法林寺)	
25	土		
26	日		
27	月		
28	火	宗祖聖人御命日(7:00、順慶寺本堂)	
29	水		
30	木		
31	金		

5月行事内容 詳細

二十一組・同朋教室

5月24日(金)

午後1時30分 法林寺(ツ木町)

講師：川瀬滋氏(岐阜県願林寺)

講題：「法名(仏弟子の名前)」

来る5月24日、6月22日の二回に亘って、岐阜県より川瀬滋氏を迎えて、講座を開催します。講題は、「法名」と「戒名」の違いなどを中心に、仏弟子となることの意義をお話いただく予定です。

お知らせ 令和六年度 護国寺バス旅行について

来る6月27日、順慶寺護国寺では四年ぶりに護国寺バス旅行を企画しています。目的地は、紫式部ゆかりの石山寺の他、滋賀県草津を巡ります。要項は左記の通り。皆さまの申込をお待ちしております。

記

日 6月27日(木) 日帰り

目的地 滋賀県草津

石山寺・水生植物園他

会費 12,000円(一人)

募集 九十名まで(バス台)

申込 5月27日までに順慶寺

お知らせ

●同朋教室募集について

上記予定の同朋教室に参加希望の方は、会費一千元(二回通し)を添えて、5月7日までに順慶寺まで申込ください。

●惣骨塔に個別区画設置します

順慶寺墓地に設置されている惣骨塔の希望者が殺到しているため、急遽、4月より惣骨塔の拡張工事を実施しています。その際、時代に合わせて、二十年間個別に埋骨できるスペースも設

置することとなりました。完成は、今年5月以降。詳細は、追って当紙面に掲載いたします。

●来年度から蓮師会総会は土日に

現在、4月23日・24日の両日に行われています。蓮師会護国寺総会ですが、来年度からは、皆さまの要望に添えて、4月の第三土曜日・日曜日の二日間の開催とすることとなりました。因みに、令和7年度は、4月19日(土)・20日(日)の予定です。

じゅんこのときめき歳時記

こいのぼり

五色のぼりをあげていますが、これは、緑(毛髪)黄(身体)赤(血液)白(齒)紫(袈裟)を象徴しているそうで、五色揃うと、お釈迦様を表すそうです。

風吞みて

筒となりたる

鯉幟

山口誓子



みなさん、5月になりますね。5月は気候もいいし、お花も綺麗なので、行楽にもってこいです。ところで、こどもの日に、こいのぼりを上げる理由をご存知でしょうか。聞くところによると、中国の黄河上流の竜門山から流れ落ちる滝で、魚が登り切れれば竜となって天に昇るといふ伝説から、「登竜門」という言葉ができたそうです。それで、日本では、子供が生まれると、竜のように大空で羽ばたけるように、こいのぼりをあげるようになったそうです。ちなみに、お寺では、法要などに